

恐竜博物館(1/2)

世界に羽ばたく恐竜博物館

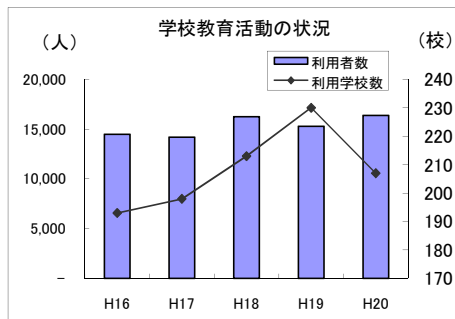
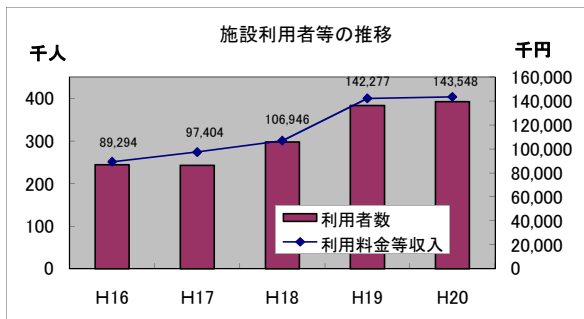
所在地	勝山市村岡町寺尾51-11		
設置年月日	平成12年7月14日		
施設の種別	博物館	施設管理主体	県
設置の目的	恐竜を中心とする古生物および地球の歴史に関する資料の収集、保管、展示、研究等を行い、もって県民の文化の向上に寄与する。		
概要 (構造、面積、主な機能)	鉄筋コンクリート造、地上3階、地下1階、延15,086㎡ 展示室・講堂・ダイナラボ・ダイノシアター・化石クリーニング室・恐竜骨格30体以上		
職員数	職員15人、非常勤嘱託3人 アルバイト5人 計23人		

利用状況等

	H16	H17	H18	H19	H20
利用者数(人)	243,976	243,006	297,904	383,423	392,727

利用者負担(利用料金)等

入館料	大人	500円
	高校・大学生	400円
	小・中学生	250円



利用状況の推移	<p>平成13年度から平成17年度の入館者は、毎年度約25万人で推移していました。</p> <p>平成18年度は、特別展「恐竜以前 ～エディアカラの不思議な生き物たち～」で、前年度を上回る入館実績(約86千人)となったほか、県内外でのPRや企業との連携に取り組んだ結果、年間来館者数は対前年比約23%増の約298千人となりました。</p> <p>平成19年度は、特別展「クジラが陸を歩いていた頃 ～恐竜絶滅後の王者～」が約127千人の入館実績となったほか、第三次恐竜化石発掘調査の成果がタイムリーに公表できたことや県内外でのPRや企業との連携により、年間来館者数は対前年比約29%増の約383千人となりました。</p> <p>平成20年度は、特別展「K/T ～絶滅期の恐竜と新時代の生き物たち」が約125千人の入館実績となったほか、第三次発掘調査における新たな成果の公表や県内外でのPR活動および企業との連携を積極的に行った結果、年間来館者数は対前年度比約3%増の約393千人と過去最高を記録しました。また、平成21年3月には、開館以来の総入館者数が300万人を達成しました。</p>
---------	--

施設の特徴

県が勝山市内で実施した恐竜化石発掘調査では、数多くの標本が発見され、当時は多くの恐竜の群れが生活していたことが明らかになりました。

恐竜博物館は、そのような恐竜に関する資料を展示した国内最大級の博物館であり、リアルで魅力的な館内の展示を通じて、子どもから大人までの幅広い世代に夢とロマンを提供しています。

県内外から多くの入館者が訪れ、地元勝山市および本県の観光振興やイメージアップに貢献しています。

教育普及事業

生涯教育への意欲の高まりや、大人から子どもまでの幅広い層の多彩なニーズに対応できるよう、恐竜に関する最新の研究や古生物学の知識をわかりやすく普及する各種セミナーや講座を開催しています。

恐竜ブランド発信事業

福井が誇る「福井県立恐竜博物館」および「フクイラプトル」などの研究成果を本県のブランドとして広く全国に発信するため、海外との連携や効果的なPR活動を行っています。

「恐竜渓谷(ダイノソバレー)」構想推進事業

恐竜博物館や恐竜化石発掘現場までの九頭竜川の上、中流域を「恐竜渓谷(ダイノソバレー)」としてブランド化するため、野外博物館の検討や恐竜モニュメントの設置などを行っています。

事業実績

カーネギー自然史博物館(アメリカ)と協力し、特別展「K/T ～絶滅期の恐竜と新時代の生き物たち～」を、夏休み期間中に92日間開催しました。

また、従来の教育普及事業を体系的にした「恐竜博物館カレッジ」とし、子どもから大人までの幅広い世代のニーズに応じたセミナー、自然教室等わかりやすい古生物学の教育普及事業を53回開催し、児童生徒、親子等約1,700名が受講しました。

広報活動としては、幕張メッセおよび新潟で行われた「恐竜大陸」や、お台場アクアシティ(東京都港区)、国立科学博物館で行われた「大恐竜展」等に標本を積極的に貸し出すなど、PR活動を展開しました。

また、県内外の学校に恐竜博物館の利用を呼びかけるとともに、県内18校、県外4校において出前授業を実施しました。

さらに、企業との連携を進め、ローソンでの特別展前売券の販売を開始するとともに、ジャパンエナジーと協働し、ダイレクトメールでの特別展PRを行いました。

次に、にぎわう博物館の実現に向け、県内企業と連携して、恐竜博物館と恐竜化石発掘現場をセットにしたツアーや館内音声ガイドシステムの導入等を企画し、夏休みの親子連れを中心に約1万人が訪れました。

また、開館からの総入館者が300万人を達成したことを記念し、「春休み」は「ふくい恐竜王国」へ行くイベントを実施し、小型獣脚類標本や草食恐竜の特別展示などを行い、約1万人の誘客につなげました。

研究面では、7月から9月にかけて55日間、勝山市北谷町杉山地区において第三次恐竜化石発掘調査を行い、大型竜脚類恐竜化石および小型獣脚類(脳函、頸椎等)等、約800点の脊椎動物化石を発掘しました。

さらに、国際的な恐竜研究の拠点化と恐竜研究ネットワークの形成を目指し、タイや中国と共同で恐竜化石発掘調査を行いました。

そのほか、NPO法人福井恐竜博物館後援会と連携し、東京都新宿区、大阪市など県外4か所において、出前PR展を開催しました。

恐竜博物館(2/2)

行政コスト計算書(平成20年度) (単位 千円)

	総額	構成比	前年比
人にかかるコスト			
人件費	163,108	17.1%	101.0%
退職給与引当金繰入	165	0.0%	-91.7%
賞与引当金繰入	7,639	0.8%	皆増
計	170,912	17.9%	105.9%
物にかかるコスト			
物件費	381,435	40.0%	90.4%
維持補修費	7,056	0.7%	135.7%
減価償却費	255,714	26.9%	99.9%
計	644,205	67.6%	94.3%
その他			
支払利息	132,974	14.0%	91.3%
その他	4,481	0.5%	77.2%
計	137,455	14.5%	90.8%
合計	952,572	100.0%	95.7%
収入			
利用料等収入	139,848	14.7%	101.5%
一般財源	812,724	85.3%	98.7%

バランスシート(平成21年3月31日現在) (単位 千円)

借方			貸方		
資産	前年比	負債	前年比		
有形固定資産	12,088,025 98.2%	固定負債	6,531,460 90.6%		
うち建物	10,631,561 97.7%	うち起債残高	6,425,981 90.6%		
うち化石標本	1,340,455 103.7%	うち退職手当引当金	105,479 88.5%		
投資等	0 -	流動負債	686,404 102.4%		
流動資産	0 -	純資産	4,870,161 109.9%		
計	12,088,025 98.2%	計	12,088,025 98.2%		

主な指標 (単位: %、円/人)

	H20	H19	前年比
県民1人あたり有形固定資産額	14,879	15,042	98.9
県民1人あたり将来負担額	8,039	8,809	91.3
世代間負担率	40.3	36.0	111.9

バランスシート、行政コスト計算書の特色

施設の設置が平成12年度と新しいため、建物が資産の9割を占めるほか、建設に伴うコスト負担(減価償却費や公債費)の割合が高くなっています。
また、施設の建設には約112億円の起債借入を行っており、県民1人あたり将来負担額が大きくなっています。

収入面では、入館者数の増加により利用料等収入が前年比1.5%増加しました。支出面では経費の削減に努め、物件費が前年比9.6%減少しました。
この結果、県民1人あたりのコスト負担は、前年比0.6%の減少となりました。

施設の目的上、管理運営上、主要な事業

恐竜研究の最新成果を展示するとともに、毎年テーマを定め、海外からの化石を初めとした貴重な標本を一同に展示する特別展を開催しています。
【H21予算額: 約65百万円】

白亜紀前期の手取層群の総合的な古環境の解明と復元を行うため、平成19年度から第3次恐竜化石発掘調査を行っています。
【H21予算額: 約31百万円】

東アジアにおける恐竜研究の拠点化と恐竜ブランドを確立するため、タイなど諸外国との共同による恐竜化石発掘調査を行うとともに、波及効果の高い首都圏を中心としたPR活動を進めます。
【H21予算額: 約32百万円】

「恐竜」を県のブランドとして高めていくため、九頭竜川流域の恐竜化石発掘現場から中流域までで「恐竜渓谷(ダイノソーバレー)」として、一体的な整備を行っていきます。
【H21予算額: 約22百万円】

今後の課題

入館者数は増加していますが、新規入館者の獲得およびリピーターを確保するため、恐竜化石発掘調査等の調査研究の推進や展示内容の充実、さらなるPR活動の実施などが必要となっています。

今後の事業方針 取組み内容

世界に誇れる博物館の実現を図るため、東アジアにおける恐竜研究の拠点化を目指すとともに本県の恐竜ブランドを確立させるため、多くの入館者でにぎわう博物館づくりを目指します。

＜東アジアにおける恐竜研究の拠点化＞

- ・白亜紀前期の手取層群の総合的な古環境の解明と復元を行うため、第3次恐竜化石発掘調査を行います。
- ・国際的な恐竜研究拠点化を目指すため、タイなど諸外国との共同による恐竜化石発掘調査を行います。
- ・海外および国内と連携し、展示の連携や研究者の交流を行います。

＜にぎわう博物館づくり＞

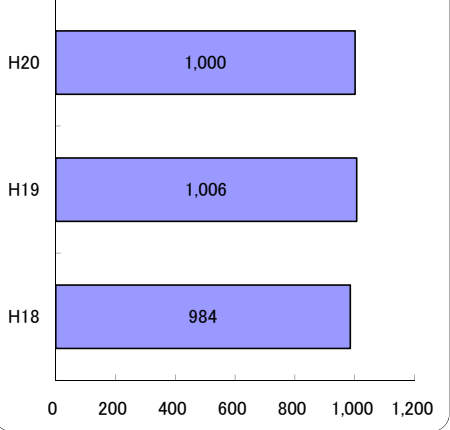
【魅力的で多彩なメニュー、サービスの提供】

- ・展示内容の充実や魅力的なテーマに沿った特別展を開催していきます。
- ・開館10周年を見据えた博物館の魅力づくりのため、常設展示内容の一部更新を行います。【九頭竜川流域一体での魅力の創出】
- ・「ふくい恐竜渓谷」＜野外博物館＞(仮称)の整備に向けた検討を進めるとともに、ジオパークの認定に向けた活動を行います。

【積極的な広報、宣伝の展開】

- ・波及効果の高い首都圏を中心としたPR活動を積極的に進めています。
- ・企業と連携して、恐竜博物館を核とした、または題材としたツアーの企画や商品の開発を進めていきます。
- ・年間パスポートやリピーター割引制度など多様な入館券の発行により、リピーターの確保を目指します。

県民1人あたりのコスト負担の状況(円)



人口100万人あたり入館者数比較(H20)
(自然史系公立博物館)

